

乳幼児のボタン電池の誤飲に注意！

<市広報 平成 27 年 2 月 1 日号より>

～乳幼児の誤飲により化学やけどのおそれも～

<事例：子どもサポート情報（国民生活センターより）>

1歳の息子がタイマーの電池の蓋を取って遊んでいるのを母親が発見したが、その中にあるはずのボタン電池が見当たらなかった。腹部レントゲンで胃にボタン電池があることを確認したため、マグネットカテーテルで摘出してもらった。（1歳 男児）

<ボタン電池の危険性>

ボタン電池は、玩具だけでなく、時計やタイマー、LED ライト、体温計、家電製品のリモコン、電卓など子どもが簡単に手にできる様々な製品に幅広く使われています。こうした製品で子どもが遊んでいたことによる事故が多数発生しています。

ボタン電池と呼ばれる電池には、形状によりコイン形とボタン形があります。コイン形の多くは、ボタン形に比べると厚さが薄く、直径が 2 cm 前後と大きく硬貨によく似た形状をしています。

ボタン電池を誤飲すると、放電で起こる化学やけどにより、短時間で「消化管に穴が開く」「潰瘍（かいよう）ができる」などの重大な事故につながる場合があります。

特に、コイン型リチウム電池は放電電圧が高いことに加え、平たく、幅が広く、食道等に停滞しやすいため、誤飲した時の危険性はより高くなります。

<アドバイス>

①ボタン電池を使用した商品の中には、工具を使用しなくても電池を取り出せたり、床への落下で電池が飛び出したりするものもあります。どの製品にボタン電池が使用されているかをチェックし、電池蓋が外れやすくなっていないか確認しましょう。

②家庭にある未使用または使用済みのボタン電池は絶対に子どもの手の届かない場所に保管しましょう。

③万一ボタン電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診断を受けましょう。また、飲んだかどうかははっきりしない場合でも、レントゲンを撮ればボタン電池の有無や電池の停滞部位が確認できますので、誤飲の可能性がある場合には、必ず受診しましょう。



